

1 児童の実態

- ① 前年度改善プランの定着目標の達成状況
 - ・学年末漢字まとめテストの正答率が70%以上の児童の割合100%が達成できた学年は2年生と4年生で、目標を達成することができなかった。
 - ・算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率は、1年生と2年生で90%を超えたが、3～6年生では60%前後だった。
- ② 全国学力・学習状況調査結果（教科）
 - ・国語は「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」「我が国の言語文化」に関する問題の正答率が高かった。一方、「思考力・判断力・表現力等」をみる問題の正答率が、全国と比較して低い。
 - ・算数は、グラフのよみ取りや□を使った式など、「知識・理解」をみる問題は比較的正答率が高かった一方、「思考力・判断力・表現力等」をみる問題の正答率が低い。
- ③ 標準学力調査
 - ・国語は2年生と4年生は全国の正答率を上回ったが、3年生と5年生は下回った。全国平均を下回った学年は、前年度よりも差が大きくなっている。
 - ・算数はすべての学年で全国平均を下回った。どの学年も四則計算など基礎基本の定着が不十分である。
- ④ 全国学力・学習状況調査結果（児童質問調査）
 - ・「人の役に立ちたい」「地域や社会をよくしたい」と考える児童の割合が、全国・全道と比較して非常に割合が高かった。
 - ・学習の中で端末を活用したり、友達と話し合って考えを深めたりしている児童の割合も高かった。
 - ・算数や英語の学習を「好き」と答える児童が多い。
 - ・1日当たりのテレビゲーム等の時間が長く、新聞を読む時間は短い。
 - ・国語や理科の学習を「好き」と答える児童の割合が低い。
- ⑤ 家庭生活及び学習の状況等
 - ・1日の家庭学習の目標時間（学年×10分＋10分）を達成した児童の割合は、1年生77%、2年生88%、3年生25%、4年生31%、5年生36%、6年生27%であった。
 - ・家庭読書の時間を1日10分以上の目標を達成した児童の割合は、1年生69%、2年生38%、3年生38%、4年生69%、5年生71%、6年生82%であった。
 - ・学習以外でのスクリーンタイム1日2時間以内の目標を達成した児童の割合は、1年生77%、2年生63%、3年生75%、4年生69%、5年生57%、6年生73%であった。
 - ・毎日朝食を摂取して登校する児童の割合は、後期児童アンケートの結果では75%であった（目標100%）。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・学期末漢字まとめテストの正答率が75%以上の児童を100%にする
2年	・学期末漢字まとめテストの正答率が75%以上の児童を100%にする
3年	・学期末漢字まとめテストの正答率が75%以上の児童を100%にする
4年	・学期末漢字まとめテストの正答率が75%以上の児童を100%にする
5年	・学期末漢字まとめテストの正答率が75%以上の児童を100%にする
6年	・学期末漢字まとめテストの正答率が75%以上の児童を100%にする

<算数科>

学年	定着目標
1年	・算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率を85%以上にする
2年	・算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率を85%以上にする
3年	・算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率を80%以上にする
4年	・算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率を80%以上にする
5年	・算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率を80%以上にする
6年	・算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率を80%以上にする

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・1日の家庭学習の時間を学年×10分＋10分以上 ・家庭読書の時間を1日10分以上 ・学習以外でのスクリーンタイムを1日2時間以内 ・毎日朝食を摂取して登校する児童を100%
2年	
3年	
4年	
5年	
6年	

3 目標を達成するための具体的な方策

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①学級経営を基盤とする授業づくりを主題とした校内研修との関連を図る。
- ②チャレンジテスト補充問題の実施
- ③デジタルドリルを活用した、反復学習や個別最適な問題への取り組み
- ④朝学習や放課後学習の時間における漢字や計算の反復練習
- ⑤長期休業中における補充学習の実施

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①課題解決学習を重視した授業展開「小樽 授業づくりの5つのSTEP!!」による見通しと振り返り、対話的な学習を位置づけた授業づくりの実施
- ②端末を活用した考えをまとめたり交流したりする場面の位置づけ（共通のアプリを使用しての全校的な取組）
- ③退職教員等外部人材活用事業非常勤講師による、算数の少人数、習熟度別学習の充実

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①「家庭学習ががんばろう週間」を年間4回実施し、学年×10分＋10分以上の家庭学習に取り組みせるとともに、学習習慣の定着を図る。
- ②「生活リズムチェックシート」を活用して日常の生活習慣を振り返ったり目標を設定したりするなどして、自己管理能力の育成を図る。
- ③保護者会、学校だより、学級通信などを通じて「おたるスマート7」の取り組みを啓発する。

4 実施計画

年・月	計 画 内 容
R 7 ・ 4	・学習規律、朝学習及び放課後学習、家庭学習の方針を全職員で共通理解 ・全国学力・学習状況調査の過去問題の実施による、児童の学力定着状況の把握 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施による、児童の学力定着状況の把握 ・保護者会（学習・生活習慣の啓発活動）
	○R 7 全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点
	○標準学力調査実施（2年・3年・4年・5年）
5	○標準学力調査結果分析・共有
6	・家庭学習がんばろう週間①
7	・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・読書チャレンジ週間 ・保護者会（学習・生活習慣の啓発活動） ・夏休みスマイル学習の実施 ・自己評価、児童・保護者アンケートの実施
8	・チャレンジテストの結果分析・共有 ・自己評価、児童・保護者アンケート結果分析
9	○R 7 全国学力・学習状況調査結果分析・共有 ・家庭学習頑張ろう週間②
	○保護者への調査結果の説明
10	○学力向上改善プランの評価・改善
11	・読書チャレンジ週間 ・家庭学習頑張ろう週間③
12	・保護者会（学習・生活習慣の啓発活動） ・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施 ・自己評価、児童・保護者アンケートの実施 ・冬休みスマイル学習の実施
R 8 ・ 1	・チャレンジテストの結果分析・共有
2	・自己評価、児童・保護者アンケート結果分析 ・家庭学習頑張ろう週間④
3	・保護者会（学習・生活習慣の啓発活動） ・全国学力・学習状況調査の過去問題の実施
	○新学力向上改善プランの作成

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣を育む取組

- ①生活リズムチェックシートの結果による家庭学習の時間、朝食の摂取状況、スクリーンタイムの時間の検証
- ②学校評価（自己評価）及び児童・保護者アンケートの結果

5 評価方法

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①学校評価（自己評価）及び児童・保護者アンケートの結果分析による、児童の学習習慣の定着
- ②チャレンジテスト、漢字テスト、計算テストの結果による基礎学力の定着
- ③生活リズムチェックシートによる読書週間の定着

（2）確かな学力を育む授業改善の取組

- ①学校評価（自己評価）及び児童・保護者アンケートの結果
- ②チャレンジテストの結果、校内研修での授業検証
- ③単元末テストの結果